

海岸景の魅力に関する基礎的研究

奥野 淳士¹・天野 光一²・押田 佳子³

¹非会員 さいたま市役所 (〒330-9588 埼玉県さいたま市常盤6-4-4, E-mail:urawa-seibu-machidukuri@city.saitama.lg.jp)

²フェロー会員 工博 日本大学理工学部社会交通工学科 (〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1, E-mail:amano.kouichi@nihon-u.ac.jp)

³正会員 農博 日本大学理工学部社会交通工学科 (〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1, E-mail:oshida.keiko@nihon-u.ac.jp)

島国であるわが国にとって、古来より海は身近な存在であり、人々の生活に非常に密接したものである。また、古くから詩歌、浮世絵、絵画などに用いられ、現在でも各地に数多くの眺望点が存在し広く国民に親しまれている。そこで、本研究では海岸景の魅力を明らかにするため、性質の異なる資料を用いて現在の海の眺望点からの写真、記述を分析した。その結果、それぞれの資料における海岸景の特性や典型景、全体を通しての特性などを明らかにすることができた。

キーワード: 海岸景, ガイドブック, 写真集, 典型景

1. はじめに

島国であるわが国にとって、古来より海は人々の生活と非常に密接したものである。また、卓越した日本の景観として知られる日本三景は、どれも共通して海にある風景である。現代でも海を望む眺望点は全国に数多く存在しており、広く国民に親しまれている。本研究では海岸景の写真及び記述を分析することで、その典型景の特性を明らかにし、もって今後の海岸景に配慮した様々な公共整備、都市計画への基礎的な知見を得ることを目的とする。

2. 研究対象

日本国内の観光地を紹介するガイドブック（ブルーガイドニッポンシリーズ全40巻）と、芸術的観点の強い写真集、世界的に著名だが日本人的観点が薄いと考えられるミシュラン・グリーン・ガイド・ジャパン（以下、ミシュランガイド）の3種類の資料を用い、それぞれの資料から海の写っている写真を対象とした。使用した資料及びそれぞれのサンプル数を表-1に示す。また、ガイドブックについては、抽出できたすべてのサンプル（以下サンプルA, 全1073枚）と、海が主体となっていると思われるサンプル（以下サンプルB, 全718枚）とに分けた上で後述の分析に用いる。

表-1 使用した資料とサンプル数

分類	資料名	サンプル数(枚)		
		サンプルA	サンプルB	
ガイドブック	ブルーガイドニッポン全40巻	1073	718	
写真集	美しき日本の自然	80		
	遺したい日本の風景IV 海岸	91		
	日本の海岸	94		
	美・鎌倉 海のある古都の彩り	10		
	山よ、海よ・・・	5		
	空はたかく日本の名景ベスト50	10		
	自分さがしの日本の名景ベスト50	7		
	なごみの風 日本の名景ベスト50	9		
	ほほえみの四季 日本の名景ベスト50	9		
	出会いの道 日本の名景ベスト50	11		
	日本楽園の旅 ベスト50	6		
	日本ふしぎ絶景 ベスト50	7		
	合計		339	
	ミシュラン・グリーン・ガイド・ジャパン			12

3. 分析方法

分析にあたっては、以下に示す5つの分析項目を設定し、対象サンプルの該当状況より集計する。この集計結果を踏まえて、海岸景の特性を分析・考察することとした。また、写真集・ミシュランガイドについては、ガイドブックによって求められた海岸景の特性を補填することを目的とする。

(1) 海と陸の構成の分析

海と陸の位置関係をカメラアングル、視点場の有無・形状、陸地の形状、海面の遮蔽要素、海が閉じている位置よりとらえ、分析した。

(2) 写真の評価項目の分析

ガイドブックと写真集を対象に、写真ごとの評価を本文や写真のタイトルより抽出する。視点場は、ガイドブックの写真自体より判別し、集計した。写真集については、記述のない資料もあるため、ここでは記述のある226枚(全339枚中)を対象とする。抽出できた評価は、「全体評価」と「要素評価」に分類した。「全体評価」とは、対象の風景全体を評価したものである。「要素評価」とは、対象の風景の構成要素を評価したものであり、要素の類型である大分類と、要素そのものである小分類を設定した。

(3) 空間特性の分析

海岸景に大きく寄与すると考えられる要素として水平性、奥行き感、視対象の3項目について分析をする。また、「カメラアングル」及び「水平線」との関連性も分析する。

(4) 同一地点の掲載回数の分析

同じ資料または別の資料の中で複数回掲載されている写真に着目し、その掲載回数を集計する。

(5) 典型景の分析

以上の分析をもとに、それぞれの資料ごと及び全体的な海岸景の特性、典型景を考察する。

4. 分析項目ごとの特徴分析

(1) 海と陸の構成

写真の構図の傾向をみるため、集計結果より「カメラアングル」に着目し、その他の分析項目とクロス集計をした。特徴が得られたものについて以下に述べる。ミッシュランガイドについては傾向がみられなかった。

「カメラアングル」に着目すると、ガイドブックでは、全体的に「俯瞰(A550枚, B438枚)」が多い傾向があった。一方で、陸地の形状が「弓状型(A55.3%, B55.8%)」、「逆L字型(A55.2%, B60.0%)」では、「目線」が特徴的に多くなる傾向がみられた。

写真集(全339枚)では、全体的には「目線(190枚)」の方が多かったが、陸地が存在するときは「目線」と「俯瞰」が同数であった(各143枚)。また、陸地が「弓状型」の場合は特に「目線」の高さから捉えたサンプルが多くみられた(75.0%)。これは、海岸線に近い場所に視点場を配置することによって曲線・曲率・奥行きが強調されるアングルが選ばれていると考えられる。海と陸との境界である海岸線が重視され、その特徴

が強調されるアングルである。

(2) 写真の評価項目

a) 全体評価

ガイドブック(サンプルA全1073枚, サンプルB718枚)では「眺望の良さ(A141枚, B124枚)」が最も多く、次いで「景色の美しさ(A131枚, B116枚)」の順に多く、この2項目が顕著に多い傾向がみられた。

写真集(全339枚)では「景色の美しさ(41枚)」、「海の色(30枚)」の順に多くみられた。

b) 評価項目

大分類の結果では、ガイドブックのサンプルA(全1073枚)において、「沿岸の施設・イベント(261枚)」が最も多く、次いで「地形の特徴(231枚)」であった。サンプルB(全718枚)ではこの順位が逆転する特徴がみられた。

写真集では「地形の特徴(106枚)」が最も多く、ガイドブック同様「地形の特徴」は重要な風景の構成要素と考えられる。また、「波」や「気象条件」はガイドブックよりも多くみられた。

小分類の結果では、ガイドブックのサンプルA, B共に「断崖(A81枚, B76枚)」、「巨岩・奇岩・岩礁(A74枚, B72枚)」の順に多くみられた(図-1)。また、サンプルAでは「船」、サンプルBでは「白砂」や「植生」も多く、海岸に特徴的な要素が抽出された。

写真集ではこの順位が逆転し、「巨岩・奇岩・岩礁(57枚)」、「断崖(37枚)」の順に多かった。

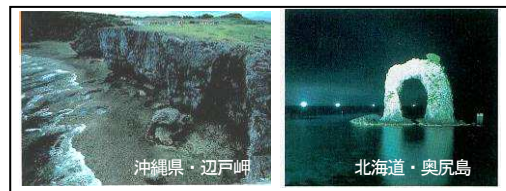


図-1 「断崖」と「奇岩」の例¹⁾

c) 視点場

サンプルA, B共に「海岸(A225枚, B178枚)」が最も多く、次いで「展望台・公園(A161枚, B127枚)」であった。海を臨む、あるいは海を展望するための場所・施設が多いことが伺える。

d) 写真の評価項目の傾向分析

全体的な傾向をみるため、ガイドブックの「全体評価」「要素評価」「視点場」をそれぞれクロス集計した。

① 全体評価と要素評価

全体評価が「景色の美しさ」の場合、サンプルA, Bにおいて「地形の特徴」が半数を超え、特に「断崖」や「巨岩・奇岩・岩礁」が多い傾向がみられた。全体評価

が「眺望の良さ」の場合、サンプル B では「沿岸の施設・イベント」が過半数を占め最も多く、特に図-2 に示すような「町並み」や「島」が多い傾向がみられた。

②視点場

視点場ごとの傾向をみると「展望台・公園」の場合、サンプル A, B 共に「町並み」「展望台・公園」「土木構造物」「多島海」「植生」が多くみられたため、これらの要素が魅力要素となり得るといえる。図-3 に示すような写真である。

視点場が「崖上」の場合、サンプル A, B 共に「地形の特徴」が7割以上と多くを占め、そのうち「断崖 (A35 枚, B34 枚)」が最も多くみられた。

視点場が「海岸」の場合でも、サンプル A, B 共に「地形の特徴 (A73 枚, B66 枚)」の割合が高く、サンプル B では、白砂などの特徴的な「海岸の地質 (40 枚)」も多かった。視点場が海に近いため、地形や地質に関する記述が多くなったと考えられる。小分類では、「巨岩・奇岩・岩礁 (A35 枚, B34 枚)」が最も多く、次いで「白砂」が多かった。わが国で伝統的に好まれている岩礁や白砂の海岸が扱われやすい傾向がみられた。



図-2 「眺望の良さ」と「町並み」・「島」の例¹⁾



図-3 「土木構造物」と「多島海」の例¹⁾

(3)空間特性の分析

海岸景に大きく寄与する要因として、先述の(1)より「奥行き感の強調」、(2)より「視対象」の存在が挙げられる。加えて、海岸景特有の空間特性として「水平性」が挙げられる。そこで、海岸景の特性をさらに追及するために「水平性」「奥行き感の強調」「視対象」の3要因に着目した。また、「カメラアングル」と「水平線」との関連性についても分析をする。「水平線」につ

いては、有無と遮蔽について分析する。

a)水平性型

水平性型とは、陸の立ち上がりが少なく、図-4 のようにパノラミックな印象を受けるタイプと設定した。ガイドブックでは244枚(全1073枚中)、写真集では84枚(全339枚)、ミシュランガイドでは5枚(全12枚)が該当した。



図-4 「水平性型」の例¹⁾

b)奥行き強調型

奥行き強調型とは、ギブソンによる「奥行き知覚の手がかり⁶⁾」に一項目以上該当し海の奥行き感が強調されているタイプと設定した。図-5 はその事例である。ガイドブックでは396枚、写真集では146枚、ミシュランガイドでは8枚が該当した。該当した「奥行き知覚の手がかり」の項目を見てみると「視対象の重なり」「視対象の明瞭さ」「視対象の肌理の密度勾配」「視対象の直線的遠近(パース効果)」の4タイプがみられた。

全ての資料で最も多かったのが「視対象の肌理の密度勾配」によるもので、全体の7割程度みられた。これは、波が主な要因となったためである。また、「視対象の直線的遠近(パース効果)」については、橋梁が存在するサンプルの半数近くで確認され、特に橋梁が多く登場するガイドブックでよくみられた。さらに、写真集では、「視対象の直線的遠近(パース効果)」以外の複数の要因で奥行き感が強調される場合が多いことがわかった。



図-5 「奥行き強調型」の例¹⁾⁸⁾¹³⁾

c) 視対象型

視対象型とは、視対象が存在するタイプと設定した。ガイドブックでは 1072 枚、写真集では 328 枚、ミシュランガイドでは 12 枚すべてが該当した。このように、ほとんどのサンプルが視対象型に分類された。さらに視対象の性質ごとに「海が地となる視対象」「海特有の視対象」「海と無関係の視対象」の3つのタイプに分類した(図-6)。結果を表-2 に示す。ガイドブック・写真集・ミシュランガイド共に「海が地となるタイプ」が最も多い結果となった。3つのタイプすべての特徴を持つものは写真集・ミシュランガイドで多く、ガイドブックよりも様々な要素の視対象がひとつのサンプルに混在することが多いと考えられる。

表-2 視対象型の集計結果(重複あり)

	ガイドブック		写真集		ミシュランガイド	
	該当数	割合	該当数	割合	該当数	割合
サンプル数	1072	99.9%	328	96.8%	12	100.0%
①海が地となる視対象	536	50.0%	221	67.4%	10	83.3%
②海特有の視対象	511	47.7%	184	56.1%	10	83.3%
③海と無関係の視対象	488	45.5%	107	32.6%	8	66.7%
①+②	269	25.1%	108	32.9%	9	75.0%
①+③	189	17.6%	68	20.7%	6	50.0%
②+③	143	13.3%	63	19.2%	6	50.0%
①+②+③	67	6.3%	42	12.8%	5	41.7%
該当なし	1	0.1%	11	3.4%	0	0.0%



図-6 「海が地となる視対象」かつ「海と無関係の視対象」の例¹⁾

d) 空間特性の関係性

「水平性型」「奥行き強調型」「視対象型」それぞれと、「カメラアングル」及び「水平線」とクロス集計を行い、傾向をみることにした。各タイプで最も多かったものを表-3 に示した。また、「水平性型」「奥行き強調型」「視対象型」の3タイプの特徴を合わせ持つサンプルは図-7 のようなものが挙げられる。なお、ミシュランガイドではサンプルが少なく傾向がみられなかったため省略する。

「水平性型」を含むタイプでは、カメラアングルについては、ガイドブックでは「俯瞰」、写真集では「目線」が多いことから、写真集ではより海岸線に近い場所から見た海岸景が好まれていると言える。

「奥行き強調型」のみでは、ガイドブックでも写真集でも対岸のある写真が最も多いことから、対岸までの限られた空間の中で奥行き感を強調しているものが多いと言える。また、目的の異なるガイドブックと写真集において同じ構図が用いられると言う特徴も得られた。

「視対象型」のみでは、水平線がないものが多いことから、視対象の存在が優先的であると言える。

「水平性型」かつ「視対象型」のタイプは、ガイドブックでも写真集でも水平線は遮蔽のないものが多いという特徴が得られた。

全体的には、複数のタイプが合わさる場合は「水平性型」の特徴が強く出ると言える。

表-3 空間特性の集計結果(重複あり)

	該当数		カメラアングル	水平線	ガイドブック		写真集	
	ガイドブック	写真集			該当数	割合	該当数	割合
水平性型	244	84	目線 あり・片側遮蔽	あり	51	20.9%	28	33.3%
奥行き強調型	396	146	俯瞰	なし・対岸によりなし	75	18.6%	26	18.4%
視対象型	1072	328	目線 俯瞰	なし・対岸によりなし	263	24.5%	43	13.8%
水+奥	151	35	目線 俯瞰	あり・遮蔽なし			9	25.7%
水+視	244	78	目線 俯瞰	あり・複数回遮蔽	30	19.9%	23	29.5%
奥+視	404	141	目線 俯瞰	あり・遮蔽なし	51	20.9%		
水+奥+視	151	35	目線 俯瞰	なし・対岸によりなし	75	18.6%	26	18.4%
			目線 俯瞰	あり・複数回遮蔽	30	19.9%	9	25.7%



図-7 「水平性型」「奥行き強調型」「視対象型」の例

(4) 同一地点の掲載回数

同じ場所が複数回掲載されている対象を調査した。その結果、性質の似たものどうしで以下3つのタイプに分類することができた。それぞれのタイプで特に多かったものを表-4 に示す。日本三景を中心として、海岸の美しさで知られる場所や、瀬戸内海に挙げられる多島美などが多く登場する結果となった。

a) 視対象優先型

構図よりも視対象の有無が優先されると考えられるタイプである。最も多かったのが広島県の宮島・大鳥居である。ミシュランガイドで同一地点が複数回紹介されて

いた唯一のサンプルである。

b) 絶対的視点場型

特定の構図が複数回掲載されるタイプである。福井県の越前海岸が最も多かった(図-8)。

c) 選択的視点場型

魅力的な視点が複数箇所存在し、それらから見た風景が掲載されるタイプである。宮城県の松島、京都府の天橋立などはこのタイプに分類される。

表-4 掲載回数の集計結果

	都道府県	場所	延べ掲載回数	ガイドブック	写真集	ミシュランガイド
視対象優先	広島県	宮島・大鳥居	9	4	3	2
	高知県	足摺岬	7	4	2	1
	鳥取県	鳥取砂丘	7	4	3	0
絶対的視点場	福井県	越前海岸	7	2	5	0
選択的視点場	岩手県	浄土ヶ浜	7	1	5	1
	宮城県	松島	13	11	1	1
	京都府	天橋立	12	10	2	0
	岡山県など	瀬戸内海	11	6	5	0



福井県・越前海岸

図-8 「絶対的視点場」の例²⁾

5. 典型的な景の分析

資料ごと及び全体を通して導くことができた海岸景の特性・典型景を以下に示す。また、その一例を図-9に示す。

(1) ガイドブックより導いた典型景

観光的用途の強いガイドブックの分析より得られた特性・典型景を示す。①図-9のIの写真のように「断崖」や「特徴的な岩」などの「地形の特徴」は、景色全体としての美しさに大きく寄与する要素である。②図-9のIIの写真のように「町並み」や「島」などの沿岸の要素は「眺望の良さ」に寄与する要素である。③図-9のIIIの写真のように「展望台・公園」から望む景色としては「眺望の良さ」が求められ、特に「町並み」などの沿岸要素や、「多島海」などの自然的要素が求められる。以上の傾向を捉えることができた。



図-9 分析より導いた典型景

(2) 写真集及びミシュランガイドより導いた考察

芸術的観点の強い写真集と、外国人の視点より捉えたミシュランガイドの分析より得られた特性・典型景を示す。①図-9のIIIの写真のように全体評価として「海の色」や「海岸の美しさ」が好まれる。②図-9のIVの写真のように「波」や「気象条件」により魅力を向上させ、印象的な風景を演出しているものが多い。以上の傾向を捉えることができた。

(3) 共通する事項の考察

全体を通して得られた特性・典型景を示す。これは目的の異なる資料でも共通する事項であるため、海岸景全体での特性と言える。①全体評価として「景色の美しさ」が多く、要素を特定せずに風景を評価するケースが多

い。②図-9のVの写真のように要素評価としては「地形の特徴」が重要であり、特に「断崖」や「巨岩・奇岩・岩礁」が風景の極めて重要な魅力要素となる。③図-9のVIの写真のように海の奥行きを強調する場合、「視対象の肌理の密度勾配」によるものが多い。④図-9の写真VII及びVIIIの写真のように海特有の視対象が存在することが多く、さらに海が地となる視対象が多い。以上の傾向を捉えることができた。

6. 結論

性質の違う3種類の資料より、それぞれにおける海岸景の特性や典型景、全体を通しての特性などを明らかにでき、日本人に好まれていると考えられる海岸景を導けた。本研究から導くことのできた特性を用い、これからの海岸景の眺望点を整備する際の一助になるのではないかと思われる。

参考文献

- 1) ブルーガイドニッポン, 実業之日本社, 2001~2003
- 2) 日本風景写真協会: 遺したい日本の風景IV海岸, 光村推古書院, 2009
- 3) 青野恭典: 日本の海岸, 共立出版, 1980
- 4) 渋川行由: 空はたかく日本の名景ベスト50, 河出書房新社, 2009
- 5) Michelin Travel Publications: ミシュラン・グリーン・ガイド・ジャパン, Michelin Travel Pubns, 2009
- 6) 伊藤登: 景観用語事典, 彰国社, pp. 58-59, 2007
- 7) 天野主税, 岡本良治, 田中達也, 山田智一: 美しき日本の自然, クレオ, 1995
- 8) 渋川行由: 自分さがしの日本の名景ベスト50, 河出書房新社, 2007
- 9) 渋川行由: なごみの風日本の名景ベスト50 河出書房新社, 2009
- 10) 渋川行由: ほほえみの四季日本の名景ベスト50, 河出書房新社, 2008
- 11) 渋川行由: 出会いの道日本の名景ベスト50, 河出書房新社, 2008
- 12) 渋川行由: 日本楽園の旅ベスト50, 河出書房新社, 2010
- 13) 渋川行由: 日本ふしぎ絶景ベスト50, 河出書房新社, 2010
- 14) 田口蕃: 美・鎌倉 海のある古都の彩り, 光村印刷, 2003
- 15) 山口高志: 山よ, 海よ..., そしえて, 1999